

協働のまちづくり協議会（第9回）議事概要

《日 時》 平成30年2月2日（金） 午前10時～12時
《場 所》 松戸市役所 議会棟2階 第3委員会室
《出席者》 犬塚 裕雅 会長、坂野 喜隆 副会長、杉浦 利彦 委員、長江 曜子 委員、
文入 加代子 委員、江藤 政継 委員、門 良英 委員
《傍聴者》 0名

1 開会

2 協働のまちづくり協議会 会長挨拶

3 議 題

(1) 平成30年度協働事業、市民活動助成事業審査の振り返り

協議会委員から、審査を振り返っての感想や意見があった。

委 員 前任の委員が協働事業の第一次審査をし、その後委員が入れ替わり、第二次審査に臨むという体制であるが、新委員にこれまでの経緯をしっかりと伝えてきていなかった。2年に一度新しい委員が入り、これまでの委員と違った新鮮な考えを協議会に入れることは大事だが、それによって今までの継続的な内容を知らないために審査が偏ってしまった場面もあった。振り返ると、引継ぎの時にしっかりとした引継ぎが無く、私も初めて協議会に参加した際、あまり説明受けないままいきなり審査の場に連れて行かれて大変戸惑ったので、レクチャーする場があっても良いのではないかと思う。

会 長 事業実施後に成果報告会はあるが、ヒアリングインタビューでもう少し掘り下げるのも良いのではないか。報告会は時間が限られており、何をやったかは結果、アウトプットの話なので、アウトカムやインパクト、実施したことで実施側がどのように変わったか、あるいは地域にどのような変化が現れ始めているのかなど、インタビューやヒアリングすると良いのではないか。

委 員 市民活動助成事業は、多岐に渡っていて、現代の社会問題全てが網羅されているように感じた。

委 員 市民活動を一団体の活動に終わらせず、きちんとした形で位置づけ、市などと連携しながら公的な支援のもと血の通った活動として継続していただけたら良い。

副会長 プレゼンテーション審査、本審査に参加していないが、協働事業の採択事業の付

帯意見と不採択事業の付帯意見を読むと、採択と不採択の差が少しわかりにくい気がした。

会 長 協議会が提案者にフィードバックする付帯意見や不採択理由は、しっかりと相手も納得でき、第三者が見ても「なるほど」と思われるような整理の仕方、意見の出し方が改めて必要だと認識した。

会 長 多種多様な提案があり、市民目線の課題意識がどういうものか改めて知った。行政の次の政策事業に繋がっていくように期待したい。

事務局が行なった平成 30 年度協働事業、市民活動助成事業審査の振り返りを報告し、それに対して、協議会から次のとおり意見があった。

< 市民活動助成事業実施後調査について >

事務局 これまで市民活動助成事業については実施後調査をしていなかった。方向性として、平成 29 年度実施分から実施後調査を行ないたい。ひとまず、助成金終了後 3 年間追いかけて、協議会で報告させていただきたい。調査方法を検討していきたいので、ご助言をいただきたい。

委 員 直接話を聞くのが一番有効だと思う。連絡先がわかっていると思うので、年に 1 回なり取材するのが一番である。万が一連絡先が途絶えたりした場合はそれも 1 つの結果として報告していただければ良い。

委 員 協議会の開催回数をもう少し増やして、アンケートではなく、直接集まって中間報告会のような形で直接状況をと聞けると良い。何か困っていれば我々が助言することもできる。もう少し会う機会を増やすという形での支援をやっていったほうが良いのではないか。

会 長 協議会が現場に近づくという話に関連して、トヨタ財団が市民活動助成にプログラムオフィサーという役割、機能を導入した。プログラムオフィサーが助成先の団体に対しいろいろな役割を担う、課題があれば一緒になって考えるというものである。トヨタ財団助成の審査員はプログラムオフィサーからの報告を受けて審議し、役割分担を明確にしながら、委員は委員としての職務を全うしてもらい、プログラムオフィサーが現場の繋ぎをやって、そこで出た現場の声を委員に繋げている。より現場に即した協議会になるにはどうすれば良いのかということころである。

まつど市民活動サポートセンターはコーディネーターとしての役割を持っているので、巻き込んでやっていくのも大事だと思う。

< 協働事業・市民活動助成事業 事業成果報告会における一般参加者・他の発表者との交流方法について >

事務局 協働事業・市民活動助成事業の事業数が多く、成果報告会が長丁場になることから、交流会を成果報告会と別の時間で設けるのは難しい。

そこで、交流会以外の方法で、発表者同士、発表者と一般参加者の交流の機会を設けられないか考えた。アンケート等によって参加者からコメントを吸い上げ、団体にフィードバックするという方法が良いのではないかと考えている。このことについてご意見をいただきたい。

委員 発表会のやり方を変えれば良いのではないかと。今は審査会のようなやり方をしているが、一般の方が入れる形を作り、部屋の中にパネルを設置して、今のような助成金をどうやって使ったかの報告会ではなく、皆で囲んで発表してもらうとか、やり方を工夫してワイワイガヤガヤできるようなやり方をイメージしている。今は報告に対しての質問は基本的に協議会だけでやっているが、誰でも言える形にして我々はただ見守る立場で良いのではないかと。

会長 日曜日の議会棟は一般市民には入りにくい。会場を変えることによって、もう少し一般参加者の出入りが活性化されれば良い。

委員 予算にもよると思うが、飲み物やお菓子をつまめて、サロンのような形でお互いが話せるような工夫があっても良い。

会長 やり方を柔軟に考えていくことも必要かもしれないが、これまで我々が成果報告をしてもらっていたのは、助成の結果がどうなったかをしっかりと最後まで見ていき、コメントしたり応援したりする役割があるためであるが、その機能をどうするかという話が出てくる。イベント性を高めれば、皆交流して次に繋がる可能性も増えていくのは確かにあるが、一方、我々の責任である助成した結果、協働した結果どうなったのか、始末をつけるのをどうするかを考える必要がある。

(2) その他

事務局から、平成 29 年度まつど地域活躍塾実施状況の報告及び松戸市市民活動総合補償制度の開始報告を行なった。

4 閉会